令和４年度　基礎生物学研究所「メダカ」バイオリソース運営委員会（第３回）
議事要旨

日時：令和５年３月３日（金）９時30分～11時11分
場所：各自の研究室等（zoomによるweb会議）
出席者
＜委員＞
木下[委員長]（京都大学）、成瀬[副委員長]（基生研）、松田（宇都宮大）、工樂（遺伝研）、橋口（宮崎大）、岡本（理研）、高田（基生研）、東島（基生研）、亀井（基生研）、吉田（基生研）、武田（東大）、竹内（東北大）、尾田（東京大）、川本（遺伝研）、出口（産総研）、竹花（長浜バイオ大）、荻野（広島大）、荻野（九州大）
＜オブザーバー＞
阿形（基生研所長）、井口（横浜市大）、寺井（新潟大）、大久保（東大）、村田（カリフォルニア大デービス校）、安齋（東北大）、笹倉（筑波大）、岩波（宇都宮大）、四宮（基生研）
＜陪席者＞
齋藤、土井、古田（文科省ライフサイエンス課）
鈴木（NBRP事務局）、高祖（(NBRP広報室）
深尾、漆原、粂、増本（岡崎統合事務センター）
金子、鈴木（基生研）

１．運営委員会委員長挨拶
議事に先立ち、木下委員長から挨拶があった。

２．報告事項
(1) 第５期NBRP令和４年度活動報告
①中核機関（基礎生物学研究所）について
成瀬委員から、資料１-1、資料1-2及び資料1-3に基づき、基礎生物学研究所における令和４年度活動実績（収集・保存・提供、広報、ゲノム情報等整備及び収支状況等）について報告があった。
②分担機関（宇都宮大学）について
松田委員から、資料２に基づき、宇都宮大学における令和４年度活動実績（保存状況及び収支状況等）について報告があった。
③分担機関（宮崎大学）について
橋口委員から、資料３に基づき、宮崎大学における令和４年度活動実績（保存状況及び収支状況等）について報告があった。
④分担機関（国立遺伝学研究所）について
工樂委員から、資料４に基づき、国立遺伝学研究所における令和４年度活動実績（既存ゲノム状況の評価、オミクス情報共有用の新規ウェブサーバ立ち上げと機能拡充準備及び収支状況等）について報告があった。
⑤ゲノム情報等整備 分担機関（東北大学）
安齋オブザーバーから、席上配付資料に基づき、東北大学における令和４年度活動実績（ゲノム情報等整備及び収支状況等）について報告があった。
３．審議事項

(1) 第 5 期 NBRP 令和 5 年度事業計画

①中核機関（基礎生物学研究所）について

成瀬委員から、資料 5 に基づき、令和 5 年度における基礎生物学研究所の活動計画について説明があり、審議の結果、これを承認した。

②分担機関（宇都宮大学）について

松田委員から、資料 6 に基づき、令和 5 年度における宇都宮大学の活動計画について説明があり、審議の結果、これを承認した。

③分担機関（宮崎大学）

橋口委員から、資料 7 に基づき、令和 5 年度における宮崎大学の活動計画について説明があり、審議の結果、これを承認した。

④分担機関（国立遺伝学研究所）について

工樂委員から、資料 8 に基づき、令和 5 年度における国立遺伝学研究所の活動計画について説明があり、審議の結果、これを承認した。

⑤ゲノム情報等整備 分担機関（京都大学）について

安齋オブザーバーから、資料 9 に基づき、令和 5 年度における京都大学の活動計画について説明があり、審議の結果、これを承認した。

４．その他

第 5 期の運営体制と今後のメダカバイオリソースのあり方について

木下委員長から、これまで検討してきた第 5 期の運営体制等の変更計画（案）について、PD・PO 及び文部科学省の関係者と web 会議で意見交換を行った結果、１）当初の事業計画に当該移転計画等が記載されていないこと、２）NBRP 事業では拠点整備をしてリソースを運用することが基本であるため中核機関が何度も交代することは想定されていないこと、３）中核機関を変更する計画案を提示する場合であっても、まずは第 5 期の運営が事業計画どおりにしっかりと実施されていることが前提であること、等の問題点が明らかとなったことに鑑み、変更計画（案）を抜本的に見直すこととなった旨の報告があった。

引き続き、木下委員長から、変更計画（案）については、今後、時間をかけて十分に議論するとともに、本運営委員会やユーザー等から意見を募り、第 5 期の中間評価時には魅力的な提案ができるように検討を重ねていきたいとの発言があった。

次いで、竹内委員から、資料 10 に基づき、１）将来ビジョンを策定するためにコミュニティから広く意見を聞く必要があること、２）月に数回のペースで勉強会を開催し、国内外のユーザーから「どういう技術が必要なのか、どういうサイエンスがこれからメダカで可能となるか」等についてヒアリングを行うことで将来ビジョンを固めていく予定であること、等について説明があった。

次いで、阿形所長から、これまで木下委員長、成瀬委員、竹内委員と意見交換を行った際に、１）ナショナルバイオリソースはどんどん進化していく必要があること、２）第 5 期から第 6 期へ移行する際には、これまで普遍性を探究していたところをメダカは多様性なり個性なりを理解するナショナルバイオリソースとして新しいステップに入ったほうがよいこと、３）運営体制等も新しくすることで時代を先取りしたようなナショナルバイオリソースに進化していくのであれば好ましいこと、４）中核機関が変わることによるネガティブなイメージではなく、よりグレードアップするための体制変更を目指すとともに、ナショナルバイ

オリソースの新たな知恵を開いていくという先兵的な役割を果たすことが望まれること、５）霊長類ゲノムデータベースでの取組み（ゲノムデータと定量化された個性との結び付け等）を参考に、より先鋭的な取り組みを講じること、６）これらの取組みによって、NBRP メダカは普遍性を理解する時代から多様性や個性を理解する時代へと、他のリソースより一歩進んだ形に進化することが望めること、等の助言を行った旨の報告があった。

引き続き、阿形所長から、１）今回の提案はこれらの議論を踏まえた内容になっており新たなユーザーが獲得されることが見込まれること、２）単に系統を維持するだけではなく新しいサイエンスを作るためのリソースとしての機能を持つことが重要であること、３）脊椎動物でこのようなレベルでの研究ができるリソースとしてはメダカが一番優位であると思われること、等の説明があった。

次いで、木下委員長から、今後、勉強会や意見交換会において様々な意見を募ることで、第 6 期の計画をどのようにしていくべきかという提案を更にブラッシュアップしていきたい旨の発言があった後、種々意見交換を行った。

以　上